石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.isenshu-u.ac.jp

代表電話番号 0225(22)7711

広報専用FAX 0225(22)7809

2009年 年頭の抱負

石巻専修大学

学長 坂田 隆

「共創研究センター」を設置
地域に根ざした活動を推進

皆様あけましておめでとうございます。昨年は創立20年祝賀会をはじめとして、専修大学特別展（専修大学図書館貴重書・毛利コレクション）、ホームカミングデー、宮城県知事による記念講演会など多くの記念事業が行われました。これらの事業にあたりまして、オール専修の校友の皆様、同窓会の皆様、育友会の皆様、専修大学教職員の皆様の絶大なご支援をいただきました。心からお礼を申し上げます。

さて、石巻専修大学では本年4月からさまざまな新しい事業を開始いたします。まず、石巻専修大学の研究活動を推進・高度化するために「石巻専修大学共創研究センター」を設置します。地域に根ざした本学の特色を生かすべく地域の産業、文化、その他の諸領域の課題について共同研究を推進し、地域の持続的発展ならびに本学の研究活動の強化および学際的教育研究分野の開拓に資することを目的とします。

次に、理工学部では全学科にコース制を導入し、大学での勉学がどのような業務に結びつくのかをわかりやすく示すことにしました。これに伴って、基礎理学科の「食品分析コース」や「美と健康コース」、情報電子工学科の「カーエレクトロニクスコース」という新しい領域も学べるようになりました。

さらに、経営学部の資格取得支援を強化し、公認会計士、税理士等の会計専門職養成講座（入門コース・上級コース）を開講します。これは学部・大学院での正課授業と並行して簿記、税理士、公認会計士などの受験準備のための課外授業を学内で受けられるようにすることによって、在学中の資格取得を支援するものです。

一方、地域に根ざした大学として、宮城県北部・岩手県南部の学生諸君を対象にした通学支援バスをこれまでの1系統から3系統に拡充し、北は花巻市周辺、三陸沿岸では気仙沼市から陸前高田市周辺、西は大崎市周辺からも自宅通学ができるようにいたします。

このように石巻専修大学は「社会知性の開発」をモットーに、オール専修の一員として本年も前進いたします。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

村井宮城県知事招き特別講義
20年記念事業 学生ら350人が聴講

▲ 宮城県の将来ビジョンを語る村井知事

創立20年記念事業の一環として昨年12月24日、森口記念館で村井嘉浩・宮城県知事を講師に迎えた特別講義を行った。テーマは「宮城の将来ビジョン」。教職員と学生を合わせ約350人が集まり、県政の将来ビジョンなどを熱く語る村井知事の話に耳を傾けた。

村井知事は県と市町村、企業、大学とが協働し、豊かな県土を創り、そこから得た富の循環により、活力と安らぎのある邦(くに)を創る「富県共創」をビジョンとして提示。その上で、政策推進の基本方向として、①富県宮城の実現②安心と活力に満ちた地域社会づくり③人と自然が調和した美しく安全な県土づくり―を挙げた。

これらを実現させる〝鍵〟として、「富県宮城推進会議」などによる県民の英知を集め、さらに「宮城の将来ビジョン行動計画」に基づき取り組んでいくことが重要であると指摘し、平成19年度から10年後を目標としていくことを力強く語った。

最後に「経済活動を支えているのは『人』であり、『富県』を担う人材になってほしい」と学生らに呼びかけた。

その後、質疑応答の時間が設けられ、知事による貴重で実りの多い講義に出席者は一様に満足そうだった。

サテライトキャンパスで公開講座を開催

本学が加盟する「学都仙台コンソーシアム」では、12月にサテライトキャンパス（仙台市市民活動サポートセンター）で社会人などを対象とした公開講座を実施した。本学からは12月6日に輪田直子・理工学部講師が、同13日には益満環・経営学部准教授がそれぞれ講義を行い、多くの市民が聴講に訪れた。

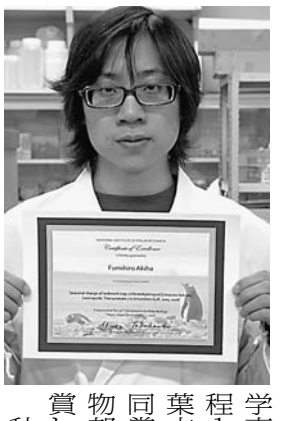
輪田講師は「奇想天外三国志物語―民衆の愛した中国伝統芸能」のテーマで話した。三国志を題材にした映画「レッドクリフPart1」の話題や、描かれた時代背景、登場人物の魅力などに触れながら、正史と小説との違い、小説とは全く雰囲気の違う生き生きとした民間芸能について分かりやすく解説した。

▲ 輪田講師の講義の様子

益満准教授は2つの講座を担当。「食の安全・安心システム―トレーサビリティとはなにか？」では、食品の流通履歴を把握できる仕組みであるトレーサビリティ・システムについて、その導入目的や適用品目、法律やガイドラインなどを解説した。「食の安全・安心システム―宮城産生かきトレーサビリティ情報システムについて」では、世界初のカキのトレーサビリティ・システムとして稼働している同システムの現状や問題点を明らかにした。

「学都仙台コンソーシアム」は06年、各高等教育機関が持つ知恵を出し合い、市民、企業、行政とともに手を携えて「学都仙台」のイメージアップを図ることを目的に結成された。県内の22の大学・短大・高専などが加盟している。

院生の秋葉文弘さん 極地研プレゼン賞受賞



▲ 受賞した秋葉さん

国立極地研究所は昨年12月2日から5日まで、極域の大気圏や海洋圏、生物圏などの研究をテーマとしたシンポジウム「極域気水圏・生物圏合同シンポジウム2008」を東京・板橋の同研究所で開催した。5日には優秀な研究を行った若手研究者を表彰する「若手プレゼンテーション賞」の発表が行われ、大学院理工学研究科生命科学専攻修士課程1年次の秋葉文弘さんが同賞（海洋生物部門）を受賞した。

秋葉さんは大学院で佐々木洋教授の指導の下、海洋生物の中でも特に尾虫類と翼足類の研究を進めている。

今回のシンポでは、極海における浮遊性の巻き貝（ミジンウキマイマイ）の季節変化について発表した。秋葉さんは「サンプルのソートが一番大変だった。泥の中から生物をピックアップし、取りこぼしのないよう細心の注意を払った。データ的にはほぼ納得できる、きれいなデータが出た」と研究の過程を振り返った上で「自分が受賞できるとは思っていなかった。研究には努力したので評価してもらえたことはうれしい」と話している。

秋葉さんは東京海洋大学の研究調査船「海鷹丸」に乗船して、1月3日から始まった南極海研究航海に参加している。

南極のリッツホルム湾では約1週間、サンプリングに精を出す。南極海の浮遊性の巻き貝の分布、ライフサイクルなどについて研究する予定で、2月8日までの長旅となる。初の海外生活で不安もあるという秋葉さんだが「何か1ついいデータを取って帰ることができれば」と、出発前に抱負を話してくれた。

山崎教授が日本体育協会から表彰

山崎省一・理工学部教授が昨年12月13日、日本体育協会（会長―森喜朗元首相）から、長年にわたってスポーツ指導者としてわが国のスポーツの普及と振興に大きな貢献をしてきたとして表彰された。

山崎教授はスポーツ生理学を専門とし、その一方で本学の陸上競技部の顧問として学生指導にあたっている。大学の環境を活用して、市民や障がい者を対象とした陸上教室を開くなど、地域のスポーツ振興に熱心に取り組んできた。

現在は石巻市を拠点とするNPO法人「石巻スポーツ振興サポートセンター」（松村善行理事長）のマネジメントも行っている。07年には日本体育協会公認クラブマネジャー資格も取得し、松村理事長やスタッフに助言をしている。山崎教授の発案で、障がい者を対象としたスポーツプログラムも実現。指導者の確保がクラブの課題であるので、今後は教え子の学生をクラブの運営スタッフや指導者として派遣する構想も描いている。

「学生自主活動支援制度」で多彩なイベント盛況

06年から発足した「学生自主活動支援制度」を利用して行われた学内イベントが大いに盛り上がった。この制度は、学生の自主的な企画、活動に対して本学が支援を行っているもの。

同制度の支援を受けて「クリスマスイルミネーションおよびミニコンサート」と「料理教室＆地場産品ふるまい」が昨年12月に開催された。参加した学生からは、「見て、体験できるイベントが多く、大いに楽しめた」との感想が寄せられた。

◆クリスマスイルミネーションおよびミニコンサート

学生会と全音楽系サークルが主催し、学生ホールにクリスマスのイルミネーションを飾り付け、季節感を演出してミニコンサートを開催した。現代芸術研究会、吹奏楽研究会、軽音楽愛好会、合唱部が日替わりで演奏し、日ごろの練習成果を披露した。また、特別企画として経営学部の伊藤健宏准教授によるピアノコンサートも大盛況だった。「専修大学校歌」をはじめ、シューマンやシューベルトなどのクラシックを演奏。クリスマスの雰囲気を盛り上げる音色が会場に響き渡った。

▶ 合唱部のミニコンサート

◆料理教室＆地場産品ふるまい

石鳳祭実行委員会の1、2年次生が中心となり、12月18日に料理教室を開いた。また19日には地元産のタラを使った鍋や焼き芋などを学生らにふるまった。これは学生と教職員との交流を図る目的で企画された。参加した学生は200人を超え、笑い声が絶えることなく大好評だった。

▲ タラ鍋や焼き芋をふるまった